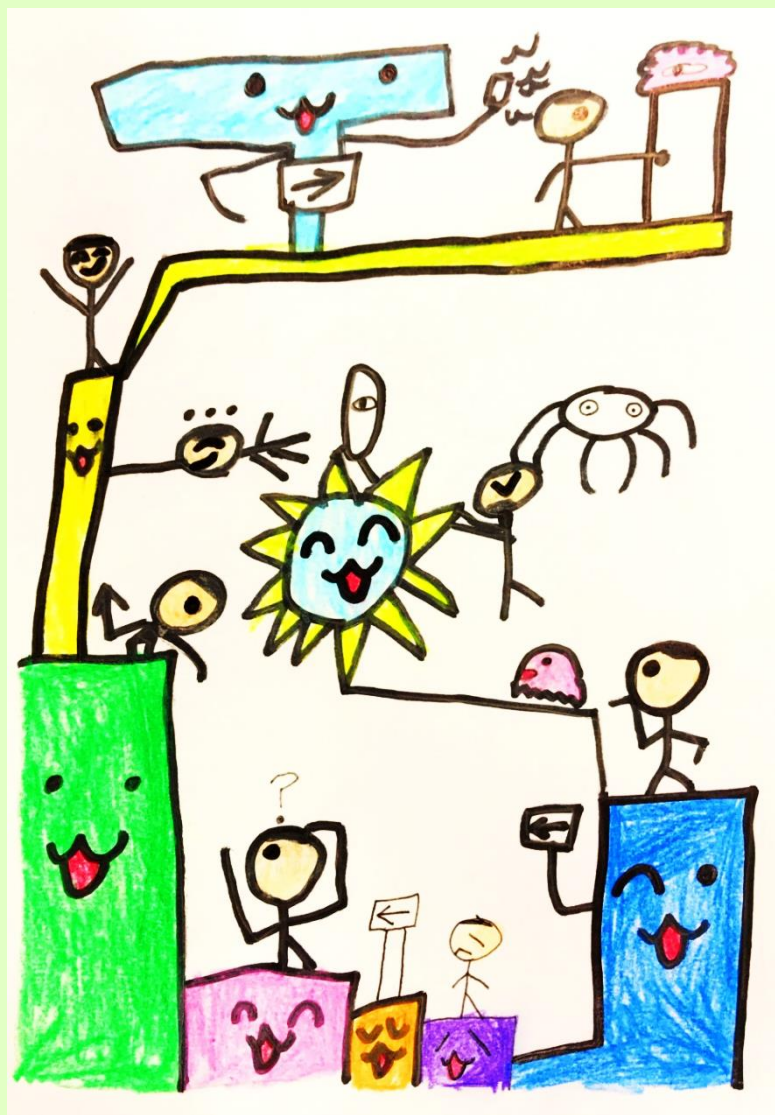


こども主体の 個別の教育支援計画 作成ガイド



私の
応援
計画

目次

子ども主体の個別の教育支援計画ガイド

概要

1	個別の教育支援計画における現状	2
2	個別の教育支援計画から「私の応援計画」へ	3
3	児童生徒に期待される効果（プランニング能力の育成）	4
4	「私の応援計画」全体像	5
5	「私の応援計画」作成の手順	6
6	「私の応援計画」作成のポイント	7
7	「私の応援計画」活用の実際	8

小学部 児童の思いを形に～小学部「思いいっぱいシート」の作成～

1	児童の願いを知るための「思いいっぱいシート」の作成	15
2	「思いいっぱいシート」活用の実際	16
3	「思いいっぱいシート」の記入手順	17
4	「思いいっぱいシート」の活用例	18

中学部 なりたい自分を目指して～中学部「私の応援計画」の活用～

1	生徒用の「私の応援計画」	21
2	「私の応援計画」の活用スケジュール	21
3	活用の実際	22
	(1)「私の応援計画Ⅰ～ゆめシート～」	23
	(2)「私の応援計画Ⅱ～私のやってみいたいこと・がんばること～」	24

高等部 将来のために、「今」できることを見つめて～高等部「私の応援計画」の活用～

1	生徒用の「私の応援計画」	25
2	「私の応援計画」作成の流れ	25
3	「私の応援計画」作成と活用の留意点	26
4	「私の応援計画」の活用例	27

卒業後 卒業後に生きる「私の応援計画」～個別移行支援計画活用の取組～

1	個別移行支援計画活用の「背景」「活用の3ステップ」	29
2	移行支援計画の様式を本校独自に工夫	30
3	活用の実際	30
4	実際のケース	31

1 個別の教育支援計画における現状

個別の教育支援計画については、2002年12月に公表された「障害者基本計画」をうけて、2003年の「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」において、「障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していく」という考えのもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的に個別の教育支援計画を作成する必要性が提起された。そして、2009年に告示された特別支援学校の幼稚部教育要領及び小学部・中学部並びに高等部学習指導要領において、家庭及び地域や医療、福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で幼児児童生徒への教育的支援を行うために個別の教育支援計画を作成することが義務付けられた。

その後、2020年度から2022年度に順次予定されている小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領の改訂においては、特別支援学級や通級による指導の対象となる児童生徒について計画の作成が義務付けられるなど、より一層の充実が求められている。

このように個別の教育支援計画の重要性が提唱される一方で、藤井（2016）が個別の教育支援計画の作成と活用に関する調査から、有効に活用されていない現状を報告するなど、課題も多く指摘されている。

以上のことから、個別の教育支援計画を有効に活用するための方策について提案する。



2 個別の教育支援計画から「私の応援計画」へ

渡辺（2013）は、未来（時間的広がり）について、「子どもたちの未来に直接焦点を当てるのではなく、『今の経験の充実』が未来の土台になるという意味で、『未来につなぐ』ことが大切である」、「『今取り組んでいることの意味』を子どもたちが分かるように伝えることによって、子ども自身も『過去と今、今と未来』をつなぐことができるようになる」と長期的な視点に立った「いまの支援の充実」について述べている。

このことをふまえ、中央教育審議会（2016）の答申で述べられている「他機関との連携を図るための長期的な視点に立った計画」、スティーブ・ホルバーン（2005）らによるパーソン・センタード・プランニングの考え方である「本人を中心に据えた計画づくりの重要性」の提起、藤井（2016）の「当事者主体の計画の重要性」の提起を参考に、本校の個別の教育支援計画について次のように捉え直した。

本校における個別の教育支援計画の捉え

「いま」の支援を子どもの長期的な成長発達過程の中にどのように位置付けるかを、本人も含めた関係者で共通理解するための計画

このような、「本人も含めた関係者で共通理解するための計画」の考え方をもとに、「個別の教育支援計画を活用していくためには、「本人と保護者が当事者意識をもって作成する」ことが重要ではないかと考えた。

そこで、本校では、これまでの学校が作成して本人・保護者が追認するような個別の教育支援計画の作成プロセスを改め、本人と保護者が主体となって作成し、関係者と連携した支援に積極的に活用できるような計画を目指し、名称を「私の応援計画」とした。



3 児童生徒に期待される効果（プランニング能力の育成）

國分ら（2013）は、プランニング能力について、「新しい場面や出来事に対して、将来の時間の中で到達する目標とそれを達成するための行動を選択・実行する能力」と捉え、プランニングは様々な認知機能に支えられ、複雑な認知操作を伴う場合が多いため、知的障害児・者に困難が生じやすいことを指摘している。

その上で、「プランニングの働きによって、生活場面や仕事において、見通しをもった行動や、効率的に目標を達成することが可能となる」、「知的障害児・者のプランニング活動を支援する方法として、認知的負担を軽減させるためにプランすべき状況を整理することが望まれる」など、知的障害児・者のプランニング能力を高めることの重要性や、そのための支援ツールの必要性について指摘している。

「私の応援計画」は、「夢や願い」、「目標」を教師や保護者との対話の中で見だし、「よさや長所」に着目して本人が主体となって作成する計画である。本人が自分の将来にわたる「夢や願い」をイメージしながら、それと今の自分を重ね合わせて課題等を理解し、その解決に向けた方策を選択・実行できるような支援ツールとして活用する。

このように、「私の応援計画」を本人が中心となって加除修正しながら作成を繰り返す、自分のことについて考えを深めていくことで、「『なりたい自分を目指して何をすべきか』行動を主体的に選択・実行していく力」、すなわちプランニング能力を高めるための基礎となる力が育まれると考える。



「なりたい自分」に近づくためには、
どんなことをがんばればいいのか？

4 「私の応援計画」全体像

「私の応援計画」の面談での聞き取りから作成、活用までの流れは、次のとおりである。

本人主体を目指した個別の教育支援計画 「私の応援計画」

進路学習としての位置付け

応援計画の必要性を知る



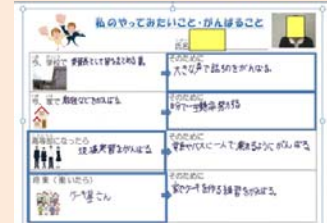
「どうして私の応援計画を？」

面談での聞き取り



「私の願いは、目標は・・・」

児童生徒用「私の応援計画」に記入
(9月・2月に評価)



「目標に向けて頑張るぞ」

「私の応援計画」の作成

【私の応援計画】 ※下線は、提示の時は空欄とし本人・保護者との相談を受けて記入

部 年	氏名	わかはと元気 (自筆)	H . . 生	保護者	わかはと太郎 (自筆)	
将来の生活・現在の生活に関する願い						
<本人の願い> (学校) みんなの前で大きな声で話したい。割り算ができるようになりたい。 (家庭) 一人で電車やバスで登下校したい。一日一枚宿題をがんばる。 (高等部) 成績実業を頑張る。 (将来) ケーキ屋さんになりたい。			<保護者の願い> ・声が小さい、自分の思っていることを相手に伝える。 ・電車やバスを使って、学校まで通学できるようにする。 ・お金の計算ができるようになってほしい。 ・手洗い(寒わん洗い)をちゃんとやる。			
私の目標						
(学校) ア みんなの前で大きな声で話す。初対面の人でも話せるようになる。誰にでも自分から挨拶する。 (家庭) 一日一枚、宿題をがんばる。 (学校・家庭) イ 一人で電車やバスで登下校する。						
必要な支援						
ア 「人と関わる力」を高めるための支援 イ 一人で電車やバスに乗れるようになるための支援						
私を応援してくれる関係機関(ゴシック体は合理的配慮・本人・保護者・関係機関が合意の上で記入)						
<家庭生活> ア 人と関わる場面の設定、つなぐ、待つ支援 ア 自分で考えて向き合えるように、本人の様子を見てからのサポート イ 長期休業や通学時の電車やバス利用の練習の付き添い、見届け	<学校> ア 見通しができるような活動内容の提示 ア 通学の年々の提示、登校の服装、事前の始末し イ 通学時の電車やバス利用の見届け、バスを利用した校外学習の計画、全校の学習	<医療・健康> ○県立医療療育センター △△の診察 ()	<余暇・地域生活> ○ピア/教室(週1回) (スモールステップでの指導をしてほしい) ○水泳教室(週1回) (通学を多く入れてほしい)	<福祉・その他> ○障害福祉課 療育手帳の更新手続き ○放課後デイサービス (友達との関わりが深まるような遊戯をしてほしい)		
<関係機関(学校を含めた)の評価>			<本人の評価> すごくがんばった ・がんばった ・もう少し			
※本書は本校児童生徒への支援を目的として、関係機関が情報を共有するためのものです。 本人、保護者と学校が合意して作成したものです。 平成 年 月 日 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 校長 _____ 担任 (自筆) _____						
(注) 随時、朱書きで追記						

日頃から目標を意識できるように
教室後方に掲示



「達成できてるかな」



活用 (在学中から卒業後まで)

交流学习における 情報交換資料

交流における目標		
・おじいさんやおばあさんに分かりやすく発表したり、会話をしたりする。		
今年度の「私の目標」	必要な支援	配慮してほしいこと (合理的配慮の視点から)
・相手に伝わるよう な声で話す。	「人と関わる力」を 高めるための支援	・大きな声で発表したり、 会話ができたときは、「す ごいね」「上手だね」など 声を掛けてほしい。

初対面でもできる配慮

現場実習での活用



事前挨拶で
生徒が目標を伝える

移行支援の取組

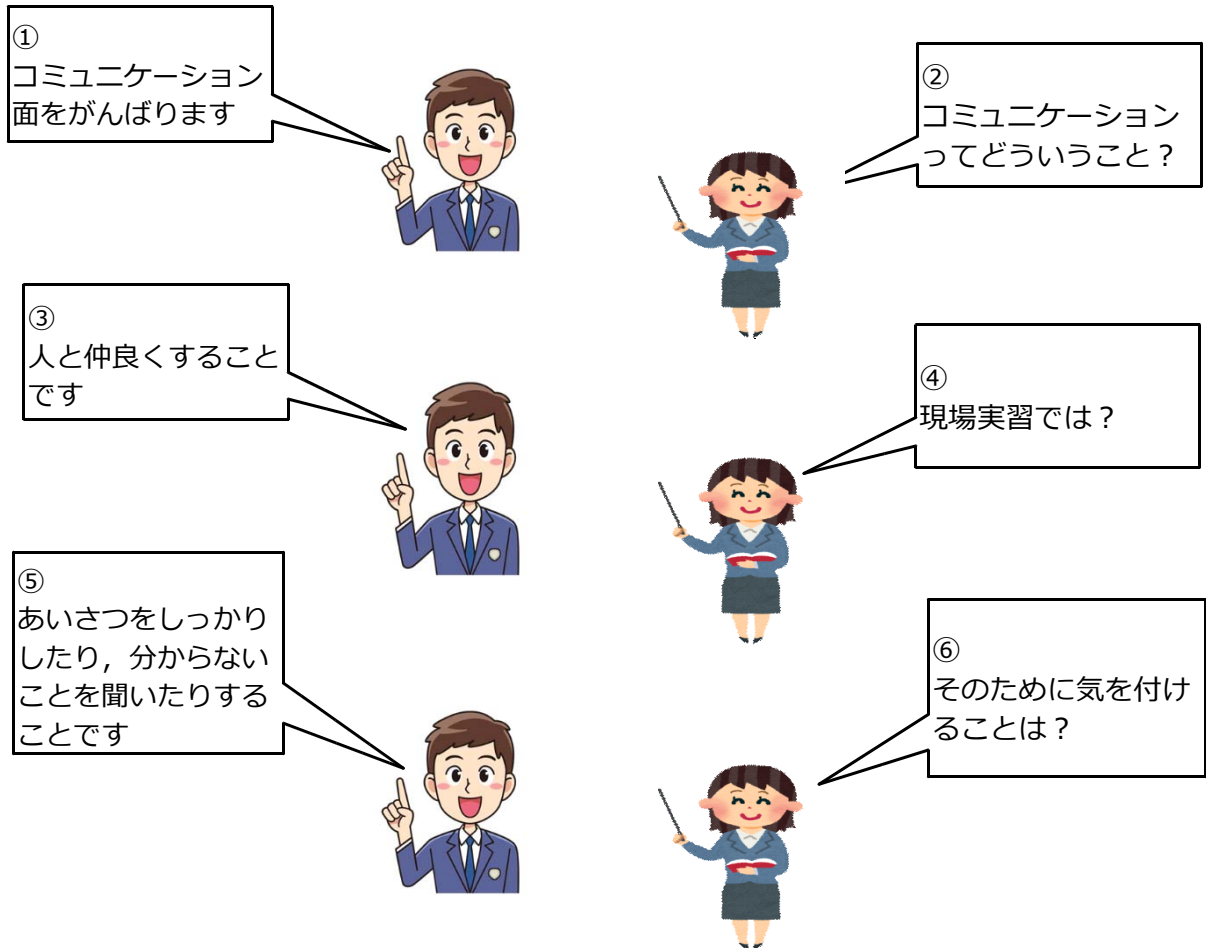
◎卒業後1年目	
「本人の願い」	「私の目標」
<「働く」の視点から>	
「合理的配慮」	
「評価及び引継ぎ事項」	
<引継ぎ事項>	<本人の評価> ・すごくがんばった ・がんばった ・もう少し

追指導の充実

6 「私の応援計画」作成のポイント

本人主体をキーワードにしたとき、大事にしたいことは、「いかに生徒が自分の考えを深めていくか」ということにある。自分で考えて作成することで、「私の応援計画」が自分自身の計画になると考える。

作成にあたっては、授業の中で、「なぜ、私の応援計画を作るのか」という必要性を確認し、個別の生徒面談で願いや思いを次の例のように丁寧に聞き取る。(①～⑥は、会話の順番)



ポイント・・・自分で考え、考えを深められるような問い掛け
(目標の意味や意義についての問い返し等)
気持ちを引き出す問い掛け

話すことが苦手な生徒に対しては、選択肢の提示やタブレット端末の画像の活用、保護者の意見を参考にしながら、生徒の気持ちに寄り添った面談を行う。

生徒との面談を行う前に、保護者から「本人の願いややりたいことは何なのか」という本人の思いや、「どんな勉強をしてほしいのか」という保護者の願いを聞き取り、生徒面談終了後には、保護者と聞き取った内容について再度確認する。

7 「私の応援計画」活用の実際

関係機関と連携を図るためのツールとして、次のように活用する。


(1) 交流学习（小・中学部）

交流学习を実施するにあたっては、今年度の「私の目標」、必要な支援（以上、「私の応援計画」より抜粋したもの）、相手方に交流学习において配慮してほしいことを記載した情報交換資料を作成し、事前の打ち合わせで使用する。〈資料4参照〉

作成にあたっては、相手方に無理のないように、「初対面でもできる配慮」を記載する。

相手方の理解を深め、相手方が安心して本校児童生徒に関わることができるようにすることで、双方にメリットがある交流学习を目指す。

交流学习における情報交換資料

交流における目標			
・おじいさんやおばあさんに分かりやすく発表したり、会話をしたりする。			
	今年度の「私の目標」	必要な支援	配慮してほしいこと (合理的配慮の視点から)
顔写真 	・相手に伝わるような声で話す。	・「人と関わる力」を高めるための支援	・大きな声で発表したり、会話ができたときは、「すごいね」「上手だね」など声を掛けてほしい。

初対面でもできる配慮

情報交換資料を活用したことで

やりかたを教えて



附属小学校との交流

〇〇さんは緊張する人だったね



保育園との交流

(2) 現場実習（高等部）

現場実習に向けての事前挨拶で、生徒本人が「私の応援計画」を持参し、「願いや学校で頑張っていること」、「私の目標」を担当者の方に伝える。

本人が「私の応援計画」が自分のための計画であることを自覚する機会にするとともに、生徒について現場実習先に知っていただく機会とする。

現場実習での活用



事前挨拶で生徒が目標を伝える

現場実習での活用

〈本人〉
「私の応援計画」が
自分のための計画である
という自覚



〈現場実習先〉
「私の応援計画」を通して
本人について
知っていただく機会

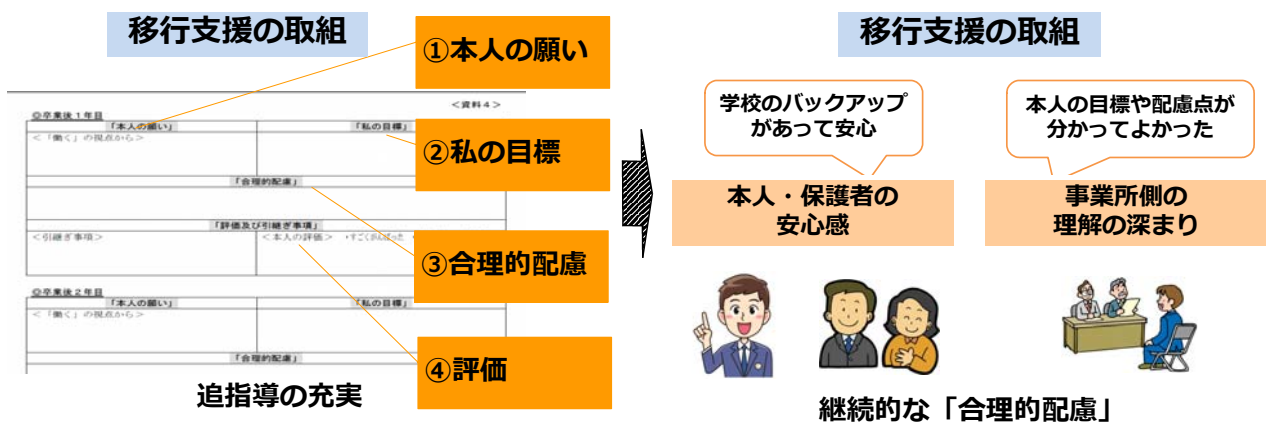


「私の応援計画」がつながっていくツールに

(3) 移行支援（詳細については、P 29参照）

個別移行支援計画に「私の応援計画」から抜粋した本校独自の下記左の資料を追加し、追指導の充実を目指した移行支援の取組の一つとして、本人、保護者、事業所、学校が連携して取り組む。具体的には、「本人の願い」を基に、働く視点からの「私の目標」を本人・保護者が立案する。次に、「私の目標」を基に、本人・保護者、進路担当・担任が合理的配慮を記入する。そして、最終的には事業所と三者で確認し、合意の上で記載する。評価は、10月と3月に実施する。

本人、保護者の安心感を高めるとともに、事業所側の理解を深め事業所の継続的な合理的配慮につなげていく。



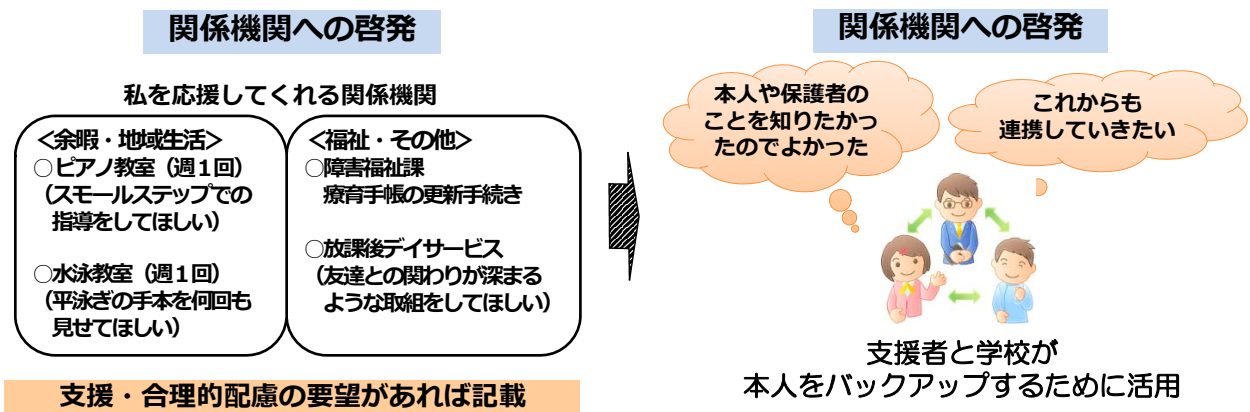
(4) 関係機関への啓発

水泳教室やピアノ教室、放課後デイサービス等、余暇機関や福祉サービス機関へ「私の応援計画」を本人・保護者が持参する。本人・保護者から関係機関へ支援・合理的配慮の要望があれば記載する。

3月に実施する関係機関の評価を基に、必要に応じて話合いの機会を設定したり、評価の内容を本人・保護者にフィードバックしたりすることで、「私の応援計画」を関係機関の支援者と学校で本人をバックアップしていくためのツールとする。

<参考> 平成29年度に本人・保護者が「私の応援計画」を持参した関係機関

デイサービス・放課後支援等：15箇所、塾・習い事等：34箇所、医療・療育センターの計50箇所



<参考・引用文献>

- (1) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「ひと・地域・未来をつなぐ」研究紀要第41・42・43集, 2015・2016・2017
- (2) 新井英靖 (2013)「こどもの内面の成長を促す授業づくりの方法」秋田大学教育文化学部附属特別支援学校公開研究協議会講演資料
- (3) 国立特別支援教育総合研究所 (2010)「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック」ジヤース教育新社
- (4) 障害者施策推進本部(2002)「障害者基本計画重点施策実施5か年計画」
- (5) 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 (2008)「知的障害者就労支援研究報告書」(福祉, 教育, 労働の連携による知的障害者の就業・生活支援～連携性のあるチーム支援モデルの提案～)
- (6) スティーブ・ホルバーン ピーター・M・ビーツェ (2005)「PCP (本人を中心に据えた計画づくり) - 研究, 実践, 将来の方向性 - 上巻」. 相川書房
- (7) スティーブ・ホルバーン ピーター・M・ビーツェ (2007)「PCP (本人を中心に据えた計画づくり) - 研究, 実践, 将来の方向性 - 下巻」. 相川書房
- (8) 内閣府 (2002)「障害者基本計画」
- (9) 西村修一 (2015)「教育における合理的配慮の考え方の課題と合理的配慮決定のプロセス」
- (10) 花熊暁(2014)「進まぬ, 個別の教育支援計画に迫る」特別支援教育研究 2
- (11) 藤井慶博(2016)「個別の教育支援計画の作成と活用に関する現状と今後の方策～特別支援学校教員に対する質問紙調査から～」秋田大学教育文化学部紀要
- (12) 古井克憲 (2010)「知的障害者に対するパーソン・センタード・プランニングの実践～特別支援教育や障害者地域生活における『本人を中心に据えた計画づくり』を目指して～」和歌山大学教育学部紀要 教育科学 第60集
- (13) 文部科学省(2003)「今後の特別支援教育の在り方について〈最終報告〉」
- (14) 文部科学省(2012)「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進〈報告〉」
- (15) 文部科学省(2016)「教育課程企画特別部会 論点整理」
- (16) 文部科学省(2016)「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
- (17) 文部科学省(2008)「幼稚園教育要領」
- (18) 文部科学省(2008)「小学校学習指導要領」
- (19) 文部科学省(2008)「中学校学習指導要領」
- (20) 文部科学省(2009)「高等学校学習指導要領」
- (21) 文部科学省(2009)「特別支援学校幼稚部教育要領」
- (22) 文部科学省(2009)「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」
- (23) 文部科学省(2009)「特別支援学校高等部学習指導要領」
- (24) 文部科学省(2017)「特別支援学校幼稚部教育要領」
- (25) 文部科学省(2017)「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」
- (26) 文部科学省(2017)「特別支援学校学習指導要領解説 総則編 (幼稚部・小学部・中学部)」
- (27) 文部科学省(2017)「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部)」
- (28) 宮崎英憲ら(2017)「学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校」明治図書
- (29) 渡辺三枝子(2013)「『今』と『つなぐ』はキャリア教育のキーワード」特別支援教育研究46
- (30) 渡辺三枝子(2013)「キャリア教育の理念と特別支援教育における今後の展望」発達障害研究 第35巻第4号

○「支援」と「合理的配慮」の文言の捉え

記載を進めるにあたって、『支援』と『合理的配慮』の文言についての捉えを明確にした。

「基礎的環境整備」+「合理的配慮」=「適切な支援」(図1)

◇根拠

・障害のある子どもに対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。

<共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告） 平成24年7月23日 中教審初等中等部会>

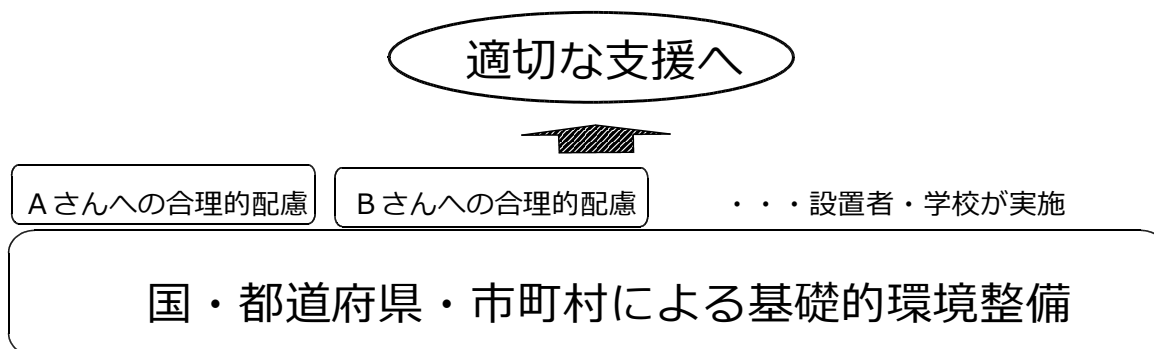


図1 支援と基礎的環境整備, 合理的配慮の捉え

○「合理的配慮」の記載

合理的配慮の考え方としては、本校研修会（2015）において、秋田大学藤井慶博氏より「個別的教育支援計画に関しては、流れが適切であれば、『○○すれば△△できる』の書き方にとらわれなくてもよいのではないか」と御助言をいただいた。

このことを踏まえて、記載の仕方については、配慮の内容のみを記載することとした。

◇本校の場合<資料2参照>

例：<私の目標>

- ・みんなの前で自信をもって大きな声で話す。
- ・初対面の人でも落ち着いて話せるようにする。
- ・誰にでも自分から挨拶する。

<合理的配慮>

(学校)・見通しがもてるような活動内容の提示

- ・教師のモデルの提示, 役割の明確化, 事前の励まし

※配慮がやや抽象的だが、具体的な配慮（または支援）は個別的教育支援計画を受けて、個別の指導計画、年間指導計画、指導案等に記載する。

【私の応援計画】

※下線は、保護者提示の時は空欄とし、本人・保護者との面談を受けて記入

＜資料2＞

部 年	氏名	わかはと元氣（自筆）	H , , 生	保護者	わかはと太郎（自筆）
-----	----	------------	---------	-----	------------

将来の生活・現在の生活に関する願い	
<p>＜本人の願い＞</p> <p>(学校) みんなの前で大きな声で話したい。割り算ができるようになりたい。</p> <p>(家庭) 一人で電車やバスで登下校したい。一日一枚宿題をがんばる。</p> <p>(高等部) 現場実習を頑張る。 (将来) ケーキ屋さんになりたい。</p>	<p>＜保護者の願い＞</p> <p>・声が小さい。自分の思っていることを相手に伝える。</p> <p>・電車やバスを使って、学校まで通学できるようにする。</p> <p>・お金の計算ができるようになってほしい。 ・手伝い(茶わん洗い)を進んでやる。</p>
私の目標	
<p>(学校) ア みんなの前で自信をもって大きな声で話す。初対面の人でも落ち着いて話せるようにする。誰にでも自分から挨拶する。</p> <p>(学校・家庭) イ 一人で電車やバスで登下校する。 (家庭) 一日一枚、宿題をがんばる。</p>	
必要な支援	
<p>ア 「人と関わる力」を高めるための支援</p> <p>イ 一人で電車やバスに乗れるようになるための支援</p>	

私を応援してくれる関係機関（ゴシック体は合理的配慮：本人・保護者・関係機関が合意の上で記入）			
<p>＜家庭生活＞</p> <p>ア 人と関わる場面の設定、つなぐ、待つ支援</p> <p>ア 自分で考えて相手と関われるように、本人の様子を見てからのサポート</p> <p>イ 長期休業中や通学時の電車やバス利用の練習の付き添い、見届け</p>	<p>＜学校＞</p> <p>ア 見通しがもてるような活動内容の提示</p> <p>ア 教師のモデルの提示、役割の明確化、事前の励まし</p> <p>イ 通学時の電車やバス利用の見届け、バスを利用した校外学習の計画、金銭の学習</p>	<p>＜医療・健康＞</p> <p>○ 県立医療療育センター △△の診察 ()</p>	<p>＜余暇・地域生活＞</p> <p>○ ピアノ教室 (週1回) (スモールステップでの指導をしてほしい)</p> <p>○ 水泳教室 (週1回) (演示を多く入れてほしい)</p>
<p>＜家庭生活＞</p> <p>○ 福祉・その他></p> <p>○ 障害福祉課 療育手帳の更新手続き</p> <p>○ 放課後デザイナーサービス (友達との関わりが深まるような取組をしてほしい)</p>			
評価			
<p>＜関係機関（学校を含めた）の評価＞</p> <p>＜本人の評価＞ すごくがんばった ・ がんばった ・ もう少し</p>			

※本書は本校児童生徒への支援を目的として、関係機関が情報を共有するためのものです。 本人、保護者と学校が合意して作成したものです。

平成 年 月 日 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 校長 担任 (自筆)

(注) 随時、朱書きで追記

平成29年度 「私の応援計画」 作成の流れ

(下線は授業において実践)

月	小学部	中学部	高等部
4	<p>【ニーズの把握】 ・昨年度の「私の応援計画」, 「実態表」(個別の指導計画書の一部)を基に, 「医療・保健」, 「余暇・地域生活」, 「福祉・その他」における「関係機関及び支援内容(合理的配慮はゴシック体)」を記入 【「合理的配慮」の内容の検討】 ・「学校」における合理的配慮を記入</p>		
5	<p>【「本人の願い」の聞き取り】 ・「がんばること」, 「やってみたいこと」等, できる範囲での聞き取り ・「思いいっぱいシート」の作成</p>	<p>【進路学習において、「私の応援計画」の確認、面談、記入】 ①中・高で「私の応援計画」についての説明 ②各学級で補足後, 面談を実施(生徒用の「私の応援計画」を活用) ③記載した目標を教室後方に掲示</p>	
6	<p>【保護者面談】 ・「思いいっぱいシート」を基に, 「本人の願い」を保護者と確認する。(合理的配慮の視点) ・「保護者の願い」を基に, 「家庭生活」における「合理的配慮」を保護者と一緒に記入</p>	<p>【保護者面談】 ・「本人の願い」, 「保護者の願い」を基に, 「家庭生活」における「合理的配慮」を保護者と一緒に記入</p>	
7	<p>【保護者への通知】 ・記載内容の確認 ・保護者の署名 【学部内における共通理解】 ・「願い」, 「合理的配慮」, 「支援機関」等の確認 【関係機関との連携】 ・(必要に応じて) 関係機関訪問, 「合理的配慮」の確認等</p>		
8	<p>【進路学習において、「私の応援計画」の確認、面談、記入】 ①中・高で「私の応援計画」の中間評価の意義等についての説明 ②各学級で補足後, 面談を実施(生徒用の「私の応援計画」を活用) ③朱書きで修正・追記した目標を教室後方に掲示</p>		
9			
10	<p>【保護者面談】 ・記載事項の確認・修正(9月) ※個別の指導計画の見直し</p> <p>【私の応援計画の更新】 ・面談を受けての修正・追記(朱書き)</p>		
1	<p>【「本人のがんばったこと」等についての聞き取り】 ・「がんばること」, 「やってみたいこと」等, できる範囲で聞き取り</p>		
2	<p>【進路学習において、「私の応援計画」の確認、面談、記入】 ①中・高で「私の応援計画」の評価の意義等についての説明 ②各学級で補足後, 面談を実施(生徒用ワークシートを活用) ③朱書きで修正・追記した目標を教室後方に掲示</p>		
3	<p>【保護者面談】 ・記載事項の評価及び次年度に向けての話合い</p> <p>【評価及び引継ぎ事項の記入】 ・次年度の「私の応援計画(案)」の作成</p>		

※必要に応じて、三者面談を実施する。



交流学習における情報交換資料

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
 中学部3年 7名

目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の子どもたちに分かりやすく発表したり、子どもたちのことを考えて接したりする。 ・ 本交流を通して、様々な人との関わりを広げる。 			
氏名	今年度の「私の目標」	必要な支援	配慮していただきたいこと (合理的配慮の視点から)
 A	様々な人と、いろいろな活動と一緒に取り組む	様々な人と一緒に活動できるような場面の設定	自分から関わるのが難しいので、言葉掛けやジェスチャー等で、子どもたちと本生徒の仲立ちをしてください。
 B	みんなの前で大きな声で話す。 初対面の人でも話せるようにする。	「人と関わる力」を高めるための支援	発表した後や子どもと接したりしているときに、「上手だったね」「優しいね」などと言葉を掛けてください。 緊張して声小さくなってしまったときは、本生徒が話したことを子どもに伝えてください。
 C	大きな声であいさつや返事などをする。	「人と関わる力」の基本となるあいさつや返事、質問の仕方等の話し方の支援	自分からあいさつしたときは、「立派だね。さすが中学生だね」などと言葉を掛けてください。
 D	子どもたちと目線を合わせて話をしたり、子どもたちの話を最後まで聞いたりする。	「人との関わり」を広げるための支援	遊びの場面で、困っているときには本生徒と子どもの仲立ちをしてください。
 E	言葉づかいに気をつけ、人に優しく接する。	「人と関わる力」を高めるための支援	子どもたちに分かりやすいように、発表したり、優しく接したりしているときに、「優しいね。ありがとう。」などと声をかけてください。
 F	相手や場面に応じた言葉遣いや振る舞い方で、様々な人と関わる	「人と関わる力」を高めるための支援	子どもたちに分かりやすい言葉や身振りで伝えたり、優しく接したりしているときに、「上手だね」「優しいね」などと言葉を掛けてください。
 G	自分の役割に集中し、自信をもって取り組む。	自分の役割に最後まで取り組むための支援	司会を担当していますが、不安になって間ができることがあります。そのときは優しく見守っててください。
<p>〈全体を通して配慮・お願いしたいこと〉(本校教師も配慮します)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが生徒に言ったことを伝えてください。生徒が言ったことを子どもたちに伝えてください。 ・ 初対面だと緊張する生徒が多いので、できるだけ話しかけてください。(反応が薄いときは、その場、または、後日教えてください) ・ 発表では、拍手など盛り上げてください。 			

小学部

児童の思いを形に

1 児童の願いを知るための「思いいっぱいシート」の作成

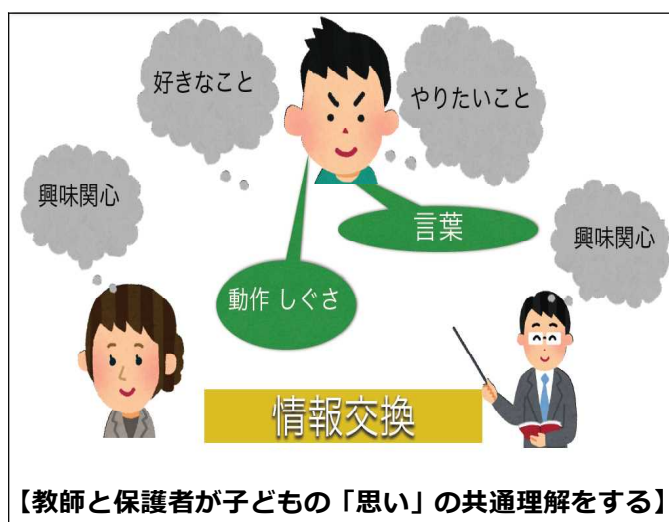
本校小学部の児童は、様々な「願い」があるが、自分の「願い」を言葉で伝えることが難しい児童が多い。そのため本人の「願い」を聞き取って「私の応援計画」に記入できない場合が多かった。また、保護者の願いが本人の願いと同じように捉えられ「願い」の欄に記入されていた。

そこで、児童の「願い」を導き出すために、児童の好きなことや得意なこと、苦手なこと、やってみたいことや興味・関心が芽生えてきたことの3点から児童の思いをくみ取り「思いいっぱいシート」（様式1、2）を作成することにした。

この「思いいっぱいシート」は教師や友達とのやりとりや関わりの中で見られた児童の思いがあふれた場面、興味・関心が出てきた場面から、言葉にできない児童の「思い」を推測し、作成した。保護者には日々の連絡帳や面談などの他に、長期休業中に「こんなこと発見シート」（保護者アンケート）を通して子どもの「思い」を見つけてもらうこととした。

児童の「思い」を保護者と教師の双方で蓄積していくことで、児童が興味をもち始めたことを共有することができ、児童の行動から「〇〇が好きなのかな」「〇〇をしたいんだね」などと、今まで以上に児童の「願い」をくみ取って関われるようになって考えている。また、子どもの好きなことや得意なことなどを見つけるために、教師が子どものことを深く知ろうと思って接したり、保護者がより様々な視点で子どもを見たりすることにつながるのではないかと考えた。

このように児童の様々な「思い」を蓄積し、教師や保護者が言葉や行動で応えていくことで、児童自身の自己理解、意思表示につながり、やがては自分から「〇〇が好き」「〇〇をしたい」「〇〇は少し苦手」などと「願い」を伝えられる児童になってほしいと考えている。



2 「思いいっぱいシート」活用の実際

「思いいっぱいシート」の活用

1 児童との関係づくり (4月)

- ・要求を聞く、共感する ・寄りそって関わる
- ・ほめる、感謝する ・笑顔で接する

2 実態把握 (4月～5月)

- ・複数の教師で様々な視点から児童を見る
- ・児童と関わりながら観察する
- ・児童のできること、もう少しでできそうなことを知る

3 私の応援計画 個別の指導計画等の作成 (5月)

- ・教育的ニーズの把握・明確化
(保護者面談から保護者の願いを踏まえつつ、担任、小学部職員で児童の教育的ニーズを明確化)



「思いいっぱいシート」の作成 (5月以降～)

- 学校生活や保護者とのやりとりなどから興味・関心のあることを記入。
(連絡帳、面談、長期休業中「こんなこと発見シート」)
- ・児童の思いを教師と保護者が共有する
 - ・児童の好きなこと、興味・関心のあること、得意なことなどを見つけ

4 授業実践

- ・学習グループの編成と学習内容の検討
児童の教育的ニーズをもとに国語、算数の学習グループを編成し、グループで取りあげる学習内容を検討して授業を進める。

実践から見えてきたポイント

- 保護者と情報共有
 - ・連絡帳、「こんなこと発見シート」(保護者アンケート)から得意なこと、興味関心のあることの聞き取りをする。
 - ・学校生活で、児童のできたこと、興味・関心のあることを保護者に詳しく伝える。
- 教師が深く広い視点で子どもを見る

まとめ

- ・児童の得意なこと、興味・関心のあることなどを踏まえて授業づくりができた。
- ・児童の「思い」をベースにして学習内容を設定することで児童から「○○したい」「○○をもっとやりたい」など自分の「思い」を学校や家庭で表現する姿が増えた。

3 「思いいっぱいシート」の記入手順

様式1

- * 様式1には端的な言葉で記入し、日々の生活の中で加筆していく。
- ・【学校】欄には、教師が一人一人の児童の好きなこと、得意なこと、苦手なことを端的に記入する。
- ・【家庭生活】欄には、家庭での様子を保護者との面談や連絡帳などを通して教師が聞き取り、端的に記入する。
- ・「こんなこと発見シート」から必要と思われることを加筆する。
- ・学校生活や家庭でのエピソード（連絡帳や面談）から随時、加筆する。

様式2

- * 様式2には、様式1に記入したことについて特筆すべきエピソードがあったときに、初めて「思いいっぱいシート」を見た人でも分かるように背景や簡潔なエピソードを記入する。
- ・【学校】欄には、教師がそのように判断した理由や背景も含めて記入する。
- ・【家庭生活】欄には、保護者との面談や連絡帳などを通して必要だと思った家庭の様子をエピソードを交えて記入する。（春）
- ・「こんなこと発見シート」や休業中の連絡帳から記入する。（長期休業明け）
- ・学校生活や家庭でのエピソード（連絡帳や面談）から 特筆すべきエピソードがあったら加筆する。

* 「こんなこと発見シート」（保護者アンケート）

長期休業中に児童ができるようになったこと、興味・関心が芽生えてきたことなどを保護者が見つけて記入する。


こんなこと発見シート(夏休み編)

年	名前
---	----

☆新しく見付けた、好きなこと、やりたいこと、興味をもっていることなど、小さいことでもかまいませんので、できるだけ具体的に2個以上探してみてください。

<参考例>

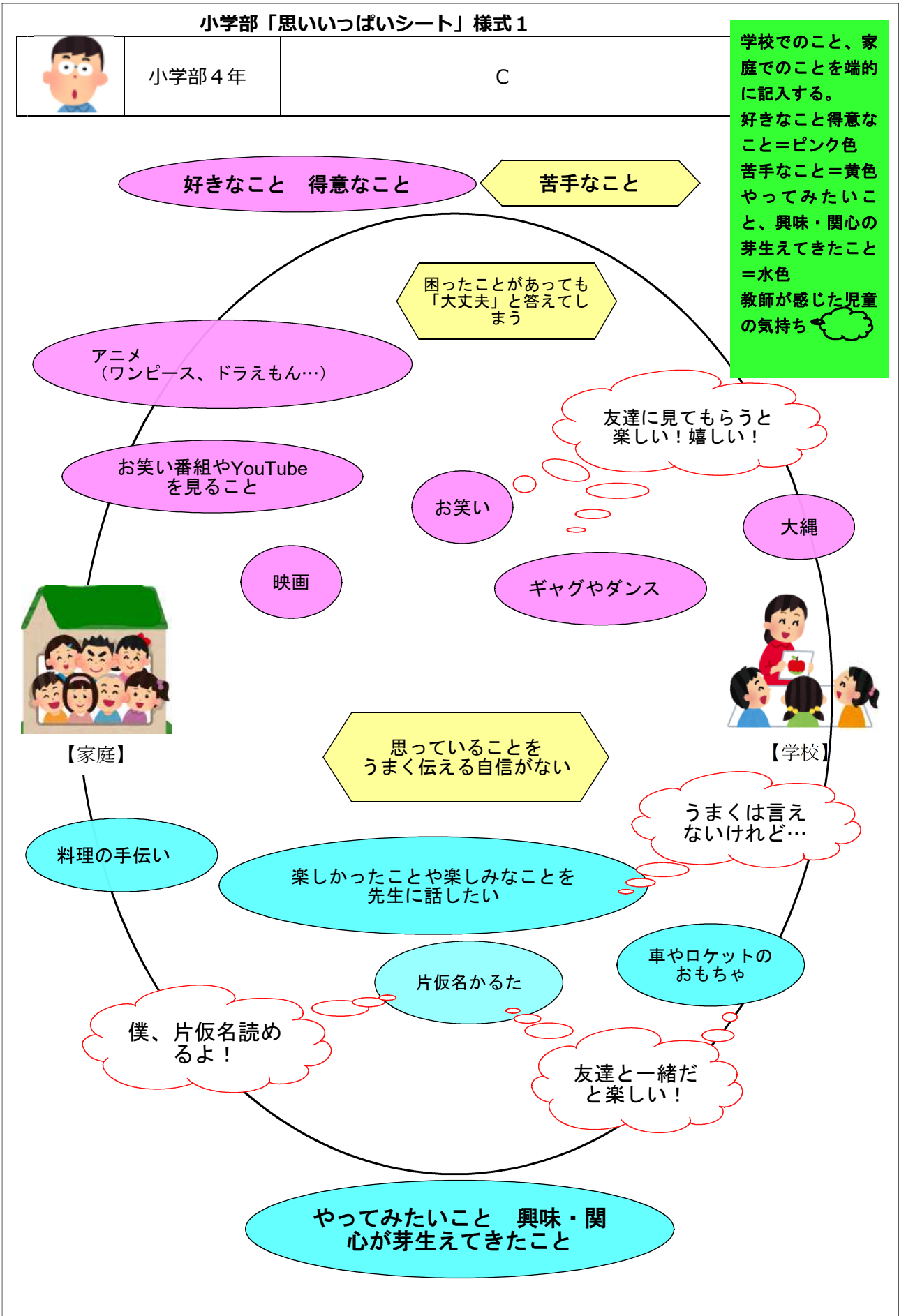
- ・絵の具を使って色を塗るとき、以前より集中してきれいに塗れるようになった。
- ・外出先で妹の面倒を見るようになり、お姉さんとしての自覚が出てきた。



私の応援計画


小学部全職員が児童一人一人の「思いいっぱいシート」の内容について情報共有し、子ども理解を深める。児童の思いから「願い」を読み取り、私の応援計画に記入する。

4 「思いつきシート」の活用例



小学部「思いいっぱいシート」様式2

特筆すべきエピソードが見られたら記入する。

	小学部 4年	C	特筆すべきエピソードが見られたら記入する。
好きなこと 得意なこと	<p style="text-align: center;">【家庭生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワンピースのゲームのキャラクターの名前を覚えている。 TVやYouTubeでお笑い番組をよく見る。 <p style="text-align: center;">【連絡帳にて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6/21(木)の後、家でも「アキラ100%」の練習をするようになった。みんなに喜んでもらったことが自信になり、附属小学校の交流に向けて練習をしているのか。 	<p style="text-align: center;">【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達に覚えたギャグやダンスを見せるのが好き。(斎藤さん、パーフェクトヒューマンなど) <p style="text-align: center;">略</p> <ul style="list-style-type: none"> お笑いやものまねが大好きな児童である。給食の時間に、教師から「好きな芸人さんは？」と尋ねられ「斎藤さん」と答え「斎藤さんだぞ」とポーズ付きでやってみせた。「他には？」と聞かれると小さな声で「アキラ100%」と答えた。「できる？」と聞くと「できる」と意気込み、食缶のふたを使って披露した。芸人の名前はまだあやふやで自信のない様子だったが、実際にやってみるとみんなに笑ってもらって自信がついたようだった。教師から「附属小学校の交流でもやって見せてね」と言われ「うん」と力強く頷いた。(6/21(木)) 	
やってみたいこと 興味関心のあること	<ul style="list-style-type: none"> 学校のチャレンジデーでお好み焼き作りを体験してから具材を切る、混ぜることに興味がある。 2時間を越える映画を映画館で最後まで座って観ることができた。(ドラえもん、SING) 飽きずに見ることができたのは、大まかな話の展開を理解できているためではないだろうか。 <p style="background-color: #00FF00; padding: 5px;">初めて「思いいっぱいシート」を見る人も分かるように背景や教師の思いも踏まえて記入。</p>	<ul style="list-style-type: none"> TVのアニメが好きで、映画を家族で見に行くことがある。SINGの映画を観た翌日、担任や元担任に「映画映画」と興奮気味に話しかける。「何観たの？」と聞くと「SING」と小さく早口で教えてくれた。楽しかったか尋ねると笑顔で「うん」と頷いた。これまで自分から休みのときの話をしてあげることがあまりなかったので、言葉は足りなかったものの、楽しかったことを伝えてくれて嬉しく感じた。(4月) 休み時間は友達と追いかけてっこをしたり、本を読んだりして過ごしている。休み時間にAやBと片仮名かるたで遊んでいる。片仮名はほとんど読むことができ、全体を見て探している。これまで友達とかるた遊びをする姿はあまり見られなかった。AやBよりも読める片仮名が多く、札を取れることが自信になっているのだろうか。 <p style="text-align: center;">略</p>	
思いがあふれた場面	<p style="background-color: #00FF00; padding: 5px;">自分から気持ちを表現した場面のエピソードを記入する。 思いがあふれて自分から表現した場面は「願い」につながる可能性があるので、大事にしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回、センターに通っている。センターでOT訓練があり早退する日、「僕センター！」と親指を立てて決めポーズを取りながら色々な教師に話しかけた。何か楽しいことがあるのかと思い、センターの後どこかに行くか尋ねると、「イオン」と満面の笑み。どうやらイオンが楽しみで「僕センター！」と言っているようだった。楽しみなことは自分から発信できるのかもしれない。(6月) ○算数の学習では、数を直観的に数える学習をしている。昼休み体育館に遊びに行くときに教師が「3人で行くよー」と声を掛ける。その声を聞いたCがぱっと一歩引く。教師としてはCと他の2人の児童の3人でという意味だったが、Cは教師も数に入れて他の児童と合わせて3人と解釈し、「自分は行けないのか?!」と思ったようだった。算数で数を数える経験をたくさん積んでいるため、<u>ぱっと見て3人を数えて、自分はその中に入っていないと思ったようだった。(6月)</u> 	

中学部

～なりたい自分を目指して～

1 生徒用の「私の応援計画」

平成29年に公示された新学習指導要領において示された育成すべき資質・能力の「三つの柱」の視点や様々な社会的要請から、中学部では「自分はどのなりたいのか」「何をしたいのか」（何ができるようになるか）、「そのために何をすればいいのか」（何を学ぶか）といった将来の自分の姿「なりたい自分」を意識することが重要であると考えた。

生徒が「なりたい自分」（「夢」や「目標」）を意識し、そのためにはどんな力が必要なのか、どんなことを頑張ればよいかを具体的に考えることができるように、「私の応援計画」を細分化し、「私の応援計画Ⅰ～ゆめシート～」P23【図1】「私の応援計画Ⅱ～私のやってみたいこと・がんばること～」P24【図2】を作成した。



【「なりたい自分」をイメージして】

2 「私の応援計画」の活用スケジュール

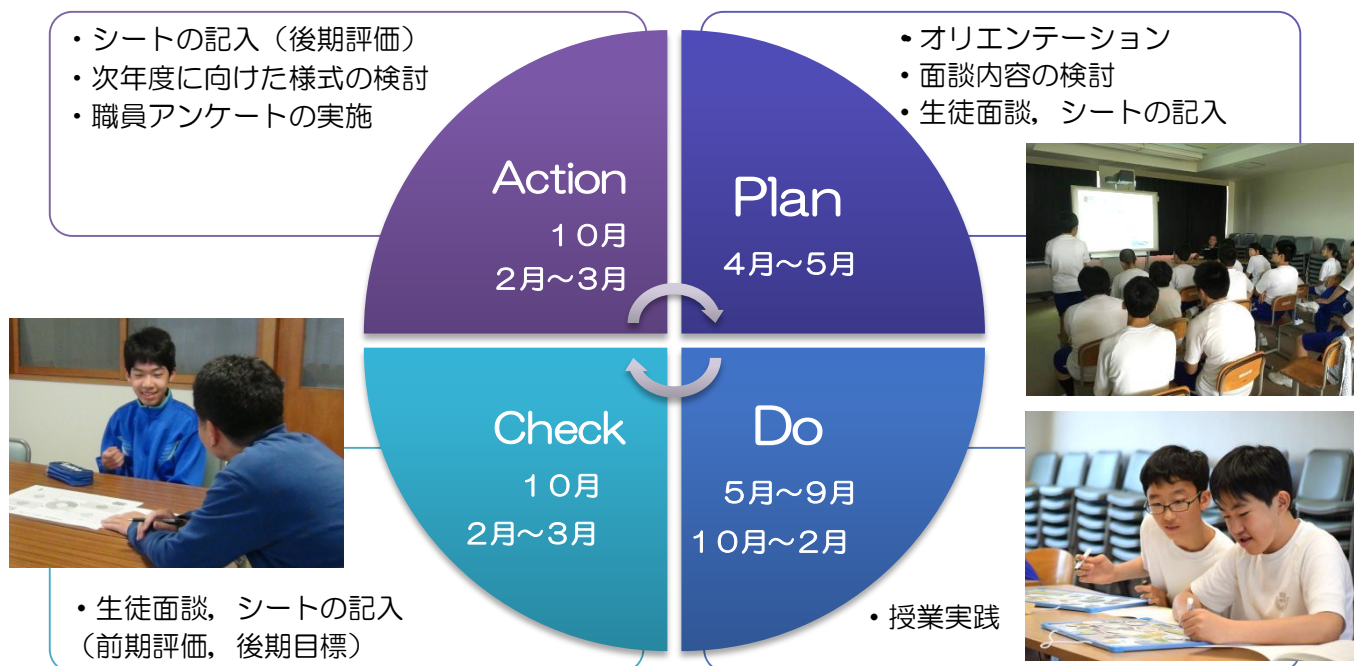
年度当初に「私の応援計画」についてのオリエンテーション、生徒面談、「ゆめシート」「私のやってみたいこと・がんばること」の記入を行う（Plan）。それらを基に授業実践をする（Do）。前期終了時、「ゆめシート」「私のやってみたいこと・がんばること」の前期評価（Check）と後期目標の設定をする（Action）。さらに授業実践を重ね（Do）、年度末に「ゆめシート」「私のやってみたいこと・がんばること」の後期の評価（Check）と、様式等について職員アンケートを実施し、次年度に向けた検討をする（Action）。

月		内容
4～5月	P	<ul style="list-style-type: none"> ・教育的ニーズの設定 ・「私の応援計画」に関するオリエンテーション ・生徒面談（願いの聞き取りと教育的ニーズの把握） ・「ゆめシート」「私のやってみたいこと・がんばること」の記入
5月～9月	D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践
10月	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒面談（前期の評価・後期の目標）
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめシート」「私のやってみたいこと・がんばること」の前期評価と後期目標の設定 ・教育的ニーズの見直し
10月～2月	D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践
2月～3月	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめシート」「私のやってみたいこと・がんばること」の後期評価 ・生徒面談（後期の評価・次年度の目標の確認）
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「私の応援計画」の様式の見直し ・職員アンケートの実施

【「私の応援計画」活用スケジュール】

3 活用の実際

「ゆめシート」，「私のやってみたいこと・がんばること」の活用から，年間を通して見えてきたポイントは次のとおりである。



～活用のポイント～

Plan

- オリエンテーションで「なりたい自分」（「夢」や「目標」）を意識することの大切さを確認する。
- 面談やシートの記入を通して，「なりたい自分」をもとに「学校」「家庭」「高等部になったら」「将来」どんなことをがんばりたいかを具体的に考える機会を設定する。
- 言葉で気持ちを表すことが難しい場合は，写真やイラストを提示し，やってみたいことや興味のあることを選択するなど，生徒の実態に合わせて気持ちを引き出す。
- 教室内にシートを掲示し，日頃から意識して生活できるようにする。

Do

- 生徒一人一人の教育的ニーズをもとにして学習グループを編成したり，適切な学習内容を導き出したりして授業を実践する。

Check

- 中間評価で目標や「がんばること」の再確認をし，より具体的な内容への変更をする。

Action

- 本人の願いを聞き取る。
- 本人，保護者の願いや教師のねらいも踏まえ，自立や社会参加に必要とされることを意識していけるように生徒に伝える。

メリット



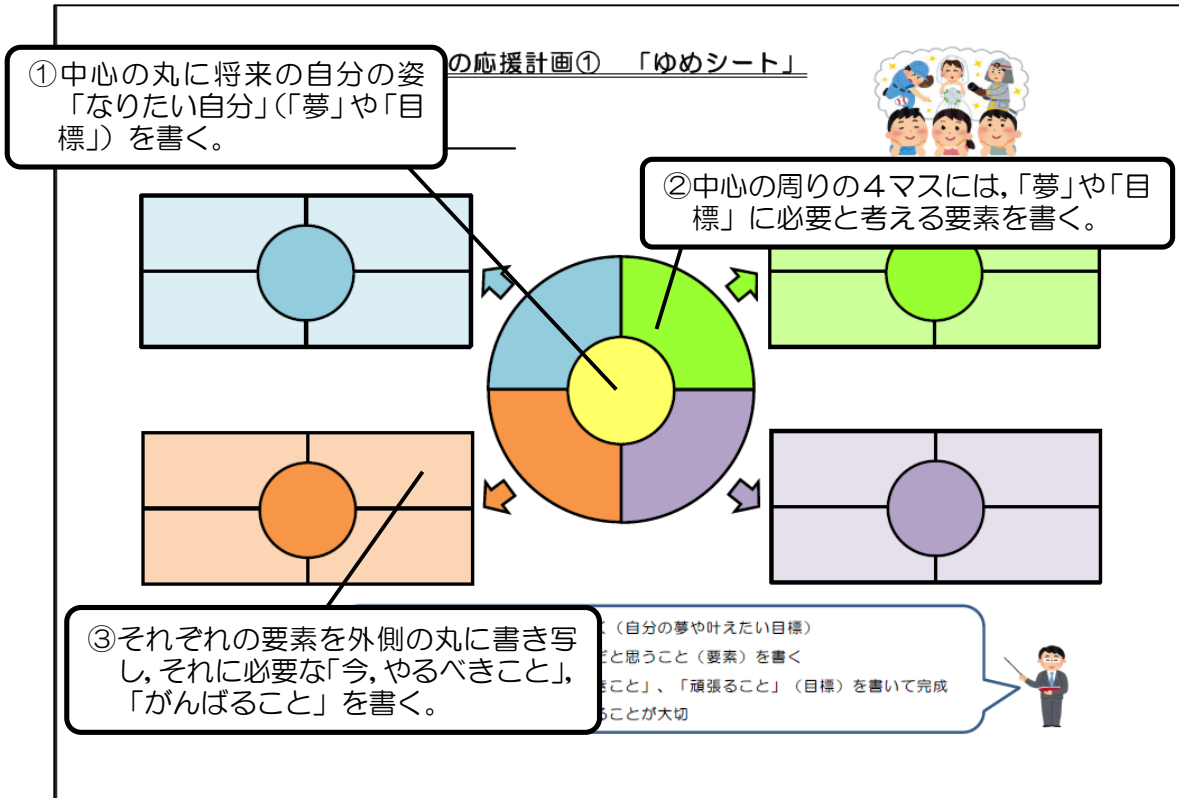
○これまでの学習内容を「教育的ニーズ」という視点から改めて整理して授業づくりをすることができた。

○年度途中に生徒の教育的ニーズを学部内の複数の教師で再確認したことで，より多面的な視点で考えることができた。

○生徒が「なりたい自分の姿」（「夢」や「目標」）を具体的にイメージできるようになり，意欲的に取り組む姿が増えた。

活用手順1

(1) 「私の応援計画 I ~ゆめシート~」 【図1】



活用例 生徒Fの場合

私の応援計画 「ゆめシート」

学年 _____ 名前 生徒F

学年 _____ 名前 _____

① 中心の丸に「なりたい自分」を書く(自分の夢や叶えたい目標)

② 「なりたい自分」の周りに必要だと思うこと(要素)を書く

③ その要素に必要な「今、やるべきこと」、「頑張ること」(目標)を書いて完成

④ それらを意識しながら行動をすることが大切


お金の計算(見習い学習)

※年度の途中で追記、訂正があった場合は随時、朱書きで訂正する

活用手順2

(2) 「私の応援計画Ⅱ～私のやってみたいこと・がんばること～」【図2】

<中学部用>




私のやってみたいこと・がんばること

「なりたい自分」(将来の夢や叶えたい目標)


④ ゆめシートの中心に記入した「なりたい自分」を書く。

なまえ
名前


そのために今、学校で



そのために今、家で




そのために高等部になったら



⑤ 「なりたい自分」になるために「ゆめシート」に記入した「今、やるべきこと」、「がんばること」を「学校」、「家庭」、「高等部になったら」の項目ごとに記入する。

活用例 生徒Fの場合

<中学部用>




私のやってみたいこと・がんばること

「なりたい自分」(将来の夢や叶えたい目標)

サラリーマン


なまえ
名前 生徒F

そのために今、学校で




きれいな字を書く 作業学習でテキパキ働く
わかりやすい文章を書く ダラダラしないように

そのために今、家で



服をきれいにたたむ みんなにわかりやすくきれいな字で書く
ホタテがずれないように鏡でかみんろ 勉強で
頭字をがんばる(道検(級)取得)

そのために高等部になったら



現場実習でアルバイト/八幡に行く
テキパキ働く

高等部

将来のために、「今」できることを見つめて

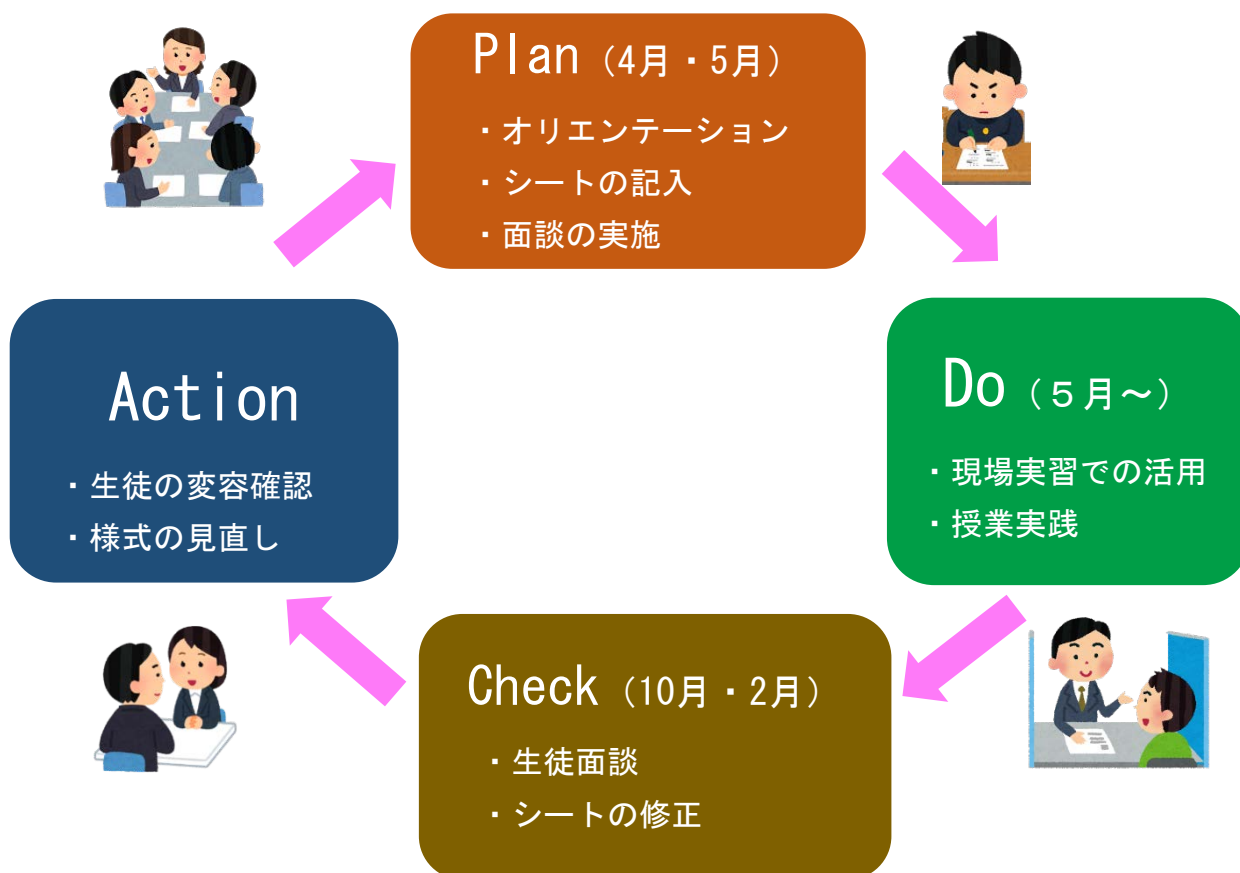
1 生徒用の「私の応援計画」

高等部生は、自分の将来の姿をイメージし、そのために今何ができるかを考え、日々、目的意識をもちながら生活する力が必要とされる。そして、それをサポートするためには、「個別の教育支援計画（私の応援計画）」の作成、活用が重要な鍵となる。

昨年度（平成28年度）のアンケートより、高等部職員の9割は「私の応援計画」を有効に活用していると答えている。それは、生徒が「私のがんばること・やってみたいこと」を自分で考えて作成し、定期的な面談を通して目標を振り返るシステムが定着してきたことや、各教室に目標を掲示したことで、日々の生活に「私の応援計画」が浸透してきたことが影響している。

高等部生として、将来の自分の姿を客観的に捉え、より現実的・具体的な目標設定ができるよう実践を行い、それを基に「私の応援計画」の作成や活用についての配慮点を以下にまとめた。また、「私の応援計画」を現場実習先と共通理解を行うためのツールとするための方策についても提案する。

2 「私の応援計画」作成の流れ



3 「私の応援計画」作成と活用の留意点

(1) Plan (4月・5月)

① 「私の応援計画」についての説明（オリエンテーション）

- ・プレゼンテーションによる事前学習を通して、自分の目標達成のために 具体的に今自分が努力する必要があることを確認する。

② 「私のやってみたいこと・がんばること」のシートに記入

- ・「学校」「家庭」「現場実習」「将来」の目標について、自分で考える時間を設ける。
- ・目標を記述する際、「そのために」何を行うかという具体的な取組を明記できるようなシートの形式とする。

③ 生徒と個別面談を実施

- ・それぞれの 願いや思いを現実的・具体的な目標に結びつけることができるように、発問を工夫する。
- ・自分で考えて意見を出すことが難しい生徒にイラストやキーワードなどの 選択肢を提示する。
- ・願いや思いを自分で伝えることが難しい生徒に、言葉を補ったり、引き出したりする。
- ・何を話してもよい雰囲気づくりを大切にする。



④ 保護者と面談を実施

- ・生徒と話し合った内容を基に作成した「私の応援計画」の原案を基に、保護者と「本人の願い」「目標」「保護者の願い」について話し合い、「合理的配慮」を記入する。

(2) Do (5月～)

① 現場実習での取組（5月・8月）

- ・事前挨拶の際、実習先に生徒の思いや実態が伝わるように、「私のがんばること・やってみたいこと」を基に、「現場実習でがんばりたいこと」などを生徒自身が話す。
- ・「私の応援計画」を基に、実習先が気付いた点や質問してみたことを生徒に伝え、それに答える場を設定する。



② 授業実践

- ・「私の応援計画」を基に、一人一人の教育的ニーズを導きだし、年間指導計画の作成に向けた話し合い（チームデザインミーティング）を行うなど、授業づくりに活用する。

(3) Check (10月・2月)

① 前期（後期）を振り返っての確認

- ・「私の応援計画」の目標が達成されたかどうかを自身で評価する場を設定する。

② 生徒と個別面談を実施

- ・目標が達成できなかったときは、「なぜ達成できなかったか」を考える。

- ・目標に対する評価を基に、新たな目標を考える場を設ける。
- ③ 「私のがんばること・やってみたいこと」のシートの修正
 - ・面談を通して確認した新たな目標を記入する。
- ④ 保護者と面談を実施
 - ・「私のがんばること・やってみたいこと」を基に生徒と話し合った内容や、「私の応援計画」の記載事項について保護者と確認し、必要であれば修正する。

(4) **Action**

- ・「私の応援計画」を基に生徒の変容や成長を確認し、課題点については改善策を導き出す。
- ・アンケート等を参考に、「私の応援計画」の様式や発問の仕方を見直し、改善する。

4 「私の応援計画」の活用例

「私の応援計画」の活用にあたっては、高等部では特に「生徒自身の評価（振り返り）」を大事にしている。その際、今年度は各学年で評価しやすい様式を工夫しながら、実践を行ってきた。各学年の活用例を以下に記載する。

<高等部3年 Aさん>

- ・普段は自分の気持ちを表現することが少ないAさんだが、個別面談ではシートに記入した「やってみたいこと・がんばること」を基に、学校や家での生活を振り返り、積極的に発言をしていた。前期を振り返って、目標が達成できなかった項目の理由について尋ねてみた。

P: 目標であった漢字練習は当初、漢字検定を受けたいためであったが、実際には検定を受けないことになり、練習をやめてしまう。

C: 「応援計画」の振り返りの際、日常使用する漢字や好きな言葉を書き表すために、「より実用的な漢字練習」を行うことを確認する。

A: 漢字練習の大切さを実感し、継続して取り組む。

私のやってみたいこと・がんばること		しめい 氏名
いま 今、学校で	ふだん使う漢字を正しく書く 木田字に「聞」えるようにあてがう	そのために、大きい字で漢字を練習する 大きな声やはっきりした音であいさつする まず目のノドに「ていねい」に大きく漢字を書く
いま 今、家で	お手伝いをする	そのために テーブルのゴミをばんこりの机とあとにする 自分のおやつを片づける
げんばじっしゅう 現場実習では	サンハウスで 集中してがんばる	そのために 9時におくる6時におきるしぐさのようにねがひ はっきり元気な人じをやるさあたりはやさしく つける
しょうらい 将来 (働いたら)	かっこいい服をきて働く仕事か <仕事>	そのために かたづけをする。カバンのなかをせいいいせいで たれにでもあてがう もちかたりの日は はなむきをする
<趣味>	水泳の大会に出たい! ピアノでコンサートに出たい!	水より先にプールで楽しくお風呂 ピアノでいける曲をうたう。エリーゼのためにがひきかたに。

- ・学校では生徒会活動や部活動など、様々な場面で責任感をもってリーダーシップを発揮しているBさんだが、家庭では自分の部屋にこもることが多く、目的意識をもてない様子も見られた。家庭での様子や、役割について尋ねてみた。

P:「将来、いろいろな料理を作れるようになる」という目標だったが、料理は休日の気が向いたときに作る程度であった。

C:不定期に取り組む目標でなく料理に関係することで日々取り組めることがないか尋ねる。

A:「毎日米をとぐ」ことを目標に設定し、継続するようになった。

わたし おるえんけいやく 私の応援計画をふりかえろう		名前
	やってみたいこと・がんばること	そのために(がんばっていること)
がっこう 学校	作業学習をがんばりたい	ドリルでは、仲間のお力をかりておぼえたことは、グループワークができるようになった。 先生からお褒めいただいたことをおぼえて作業できた。
	作業のやり方をおぼえる。→そのために仲間を見てお力をおぼえる。	
いま 現場	料理をなるべく食べる	朝ごはんは食べておぼえた。
いま 現場	料理を色々作るようになりたい	本やテレビを見て作り方をしりべた。
いま 現場	一人で料理をできるようにしたい。→ケーキの作り方を覚えて、毎日米をとぐ。	
いま 現場	自分からあいさつ返事をする。	笑顔をあいさつをがんばりまはしたときに元気がないと思いをした。声を大きく出した。
いま 現場	自分から笑顔をあいさつする。→出会った人に元気にあいさつをする。	
いま 現場	スポーツかんけいの仕事をやりたい	本やテレビ、ラジオなど色々なスポーツを知らる。
いま 現場	色々なスポーツを知る。→本やテレビを見ておぼえる。	
いま 現場	サッカー	足がよいのでストレッチは毎日がんばった。
いま 現場	サッカー	サッカーのシュートも出来る。→ボールを蹴る。

<高等部1年 Cさん>

- ・他校からの新入生のため、年度初めの「やってみたいこと・がんばること」の聞き取りが難しかったCさん。高等部生活にも見通しをもち、現場実習を終えた後で、前期を振り返って面談を実施したところ、気持ちの変化が見えてきた。

P:現場実習のイメージがもてないため、過去のインターンシップを思い出し、職場を選択していた。

C:希望していた幼稚園で現場実習を経験するも、「子供と関わる仕事をやりたいと思っていたけど、自分に合わないことが分かった」と面談で感想を述べた。

A:自身を振り返り、将来の就きたい仕事にも変化が見られた。

私のやってみたいこと・がんばること		氏名
がっこう 学校で	サービス班で使った人か気持ちよくなるようにしていい掃除がしたい。	そのために 自分の身の回りを清潔にする。拭き残しをしっかりと掃除の仕方を身に付ける。 仲間と協力しながら作業する。
いま 現場	一人で通学したい。一人で掃除、洗濯、料理、買い物をする。	そのために 電車の時刻と乗り場を間違えないようにする。 手伝いをする。電車の乗り方。
いま 現場	現場実習では、たれでも礼儀正しくいかにしたい。よき見をひいて作業する。 分からなことはかまわずに聞く。 近くの人の話をきく。	そのために 日ごろから礼儀正しくいかにしたい。よき見をひいて作業する。 学校の足力強でもよき見をひいて作業する。ほつきり大きな声で返事をする。
いま 現場	将来(働いたら) 図書館の仕事したい。	そのために 周りの人とよく話す。 専門学校に行く。実習する。体力をつける。 体調管理。コミュニケーションを付ける。正確に作業する。 仕事でお金をためる。無駄なつづりをしない。行き先を覚える。
いま 現場	子供とあつかわく仕事に就きたい。	
いま 現場	夜更とドライブに行きたい。	
いま 現場	旅行先で旅行に行きたい。	

実践から見えてきた活用のポイント

- ・生徒の希望を大切にしながらも、現実的な目標につながるように、シートの形式や発問を工夫する。
- ・卒業生の動向も含めた進路に関する様々な情報を提供する。
- ・目標に対しての達成度を計画的に自分で振り返ることができる評価の場を設定する。

卒業後に生きる「私の応援計画」
～個別移行支援計画活用の取組～

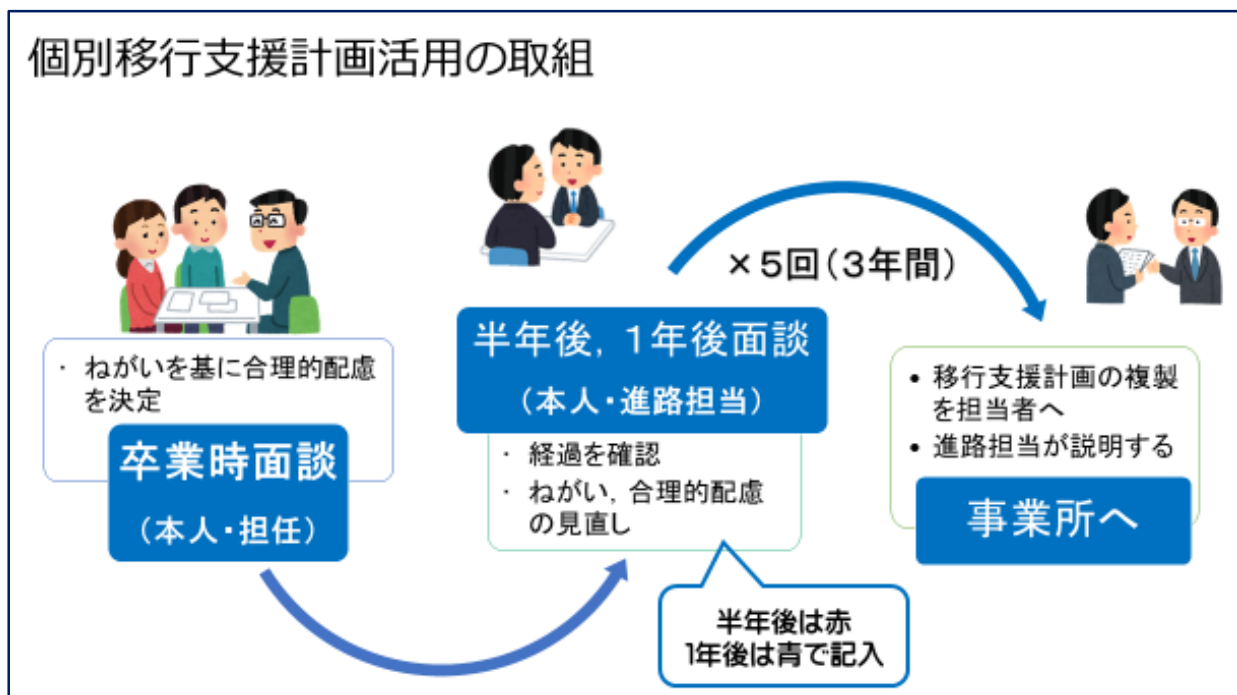
私の応援計画活用の一環として、個別移行支援計画を活用した取り組みについて以下に記す。

(※個別の教育支援計画ガイドP8参照)

1 個別移行支援計画活用の「背景」「活用の3ステップ」



個別移行支援計画活用の取組を図にしたものは以下のとおりである。



2 移行支援計画の様式（左が表面、右が裏面：本校で独自に工夫）

個別移行支援計画

本人のプロフィール		記入者（ ）
氏名	（男）	生年月日（S）(日) 年 月 日
住所		
保護者		
出身校		
将来の生活についての希望		
<ul style="list-style-type: none"> 車の免許をとってサカイの仕事 バイクの免許が欲しい。 家で家族と暮らしたい。 		
必要と		
<ul style="list-style-type: none"> 職場での人間関係や悩み事 自立に向けての家での手伝い 適切な言葉遣いや質問へのス 公共機関や公共施設の使い方 		
具体的支援		
家庭生活	担当者：保護者 連絡先： 内容：生活の様子	への相談 生活力の
進路先の生活	担当者：株式会社 連絡先：880- 内容：仕事の全	提供や視 関係機関
医療・健康	担当者：秋田県療 連絡先：826- 内容：心理判定	
余暇・地域生活	担当者：ウエルビ 連絡先：896- 内容：職場定着支援や余暇活動についての相談支援	
出身校の役割	担当者：附属特別支援学校 連絡先：862-8583 内容：本人や保護者、関係機関と連絡をとり、定期的な進指導を継続する。本人の労働状況や生活状況を把握し、必要に応じて相談会議を設定する。同窓会行事への参加案内を行う。	
備考：		

本人のプロフィール

将来の生活についての希望
必要と思われる支援内容

具体的支援
・家庭
・進路先
・関係機関
・医療
・卒業学校

以上の支援内容について了承しました。

本人と保護者のサイン

氏名（自筆）

保護者

りません。

1年目	本人の願い	私の目標
	<ul style="list-style-type: none"> 段ボールを2つ重ねて運べるようになりたい。→3つもてる時もある。 周りの人たちと話ができるようになりたい。→できた。→できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事で使う道具類の名前を早く覚える。→ハンド、ようじよう、段ボールの大きさなど。一覚えた。 周りの人たちとコミュニケーションがとれるようになる。→手出し（おはよう）は、仕事の手続きはできる。
		合理的配慮
		<p>合理的配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具類の名前を間違っている場合は、その場ですぐに伝える。 従業員の方々への障がい（本人の特性）の理解啓発を回る（金一話し掛けてくれて嬉しい。
		評価及び引き継ぎ事項
	<p><引継ぎ事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続きサカイで頑張りたい。 	<p><本人の評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 「すぐがんばった」「がんばった」「もう少しがんばった」 「段ボールを3つ運べるようになってきた。」 「手出した。」 「うになった。」
2年目	本人の願い	私の目標
	<p><「働く」の視点から></p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで通りの仕事を頑張りたい。→継続 	<ul style="list-style-type: none"> 養生を貼っていい場所と、貼ってはいけない場所が分かる。→先輩の様子を見ている。
		合理的配慮
		<p>合理的配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 体の使い方が間違っているときには引き続き教える。→教えてもらっている。 養生を貼る場所、貼っては行けない場所を教える。→やり方を見せてもらっている。
		評価及び引き継ぎ事項
	<p><引継ぎ事項></p>	<p><本人の評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 「すぐがんばった」「がんばった」「もう少しがんばった」
3年目	本人の願い	私の目標
	<p><「働く」の視点から></p>	
		合理的配慮
		合理的配慮
		評価及び引き継ぎ事項
	<p><引継ぎ事項></p>	<p><本人の評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 「すぐがんばった」「がんばった」「もう少しがんばった」

3 活用の成果

個別移行支援計画の活用から見てきたことは以下のとおりである。

成長を実感

進路担当との面談を半年ごとに行う中で、本人の願いや目標を定期的に振り返ることができた。これにより、自分が半年前に理想としていた働き方に近付いていると感じた生徒もいた。

職場への感謝

個別移行支援計画内の合理的配慮についての振り返りでは、本人がどのように周囲に理解されていたのかを知るきっかけとなった。

概念の共有化

合理的配慮の具体例については、「合理的配慮指針事例集第三版」に記載されている。相談窓口の明確化、適正に応じた配置、本人に合わせた指示の出し方など、これまでに行われてきた支援とも類似している。（本人、学校、保護者、事業所が）合理的配慮について話し合ったり、実施したりすることで、概念を共通理解するきっかけとなったのではないかと。



「合理的配慮の本質は、障害当事者と事業主が相互にやり取りをしながら作り上げていくもの」石川（2016）

本校卒業生の合理的配慮（抜粋）

- ・説明だけではできないことがあるので、新しい仕事の時には、手本を見せてほしい。
- ・小さい声になってしまい、聞き取ってもらえないとショックが大きいので、自信を取り戻せるように励ましてほしい。
- ・言いたいことを急に言えないことがあるので、まとまるまで待ってほしい。
- ・分かったつもりになっていることがあるので、実際にできているか確認してほしい。

すべての事業所で、「難しい」「できない」と否定することなく、快諾していただき、丁寧に対応していただいた。半年後に本人の気持ちや成長を伝えることで、担当の方が学校と一緒に本人の成長を喜ぶことができた。

4 実際のケース →赤：半年後 →青：1年後

◎卒業後1年目

「本人の願い」	「私の目標」
<「働く」の視点から> ・段ボールを2つ重ねて運べるようになりたい。 →なってきた。→3つもてるときもある。 ・周りの人たちと話ができるようになりたい。 →なってきた。→できるようになってきた。	・仕事で使う道具類の名前を早く覚える。 →パッド、ようじょう、段ボールの大きさなど。→覚えた ・周りの人たちとコミュニケーションがとれるようにする。 →あまり話せないけど、
「合理的配慮」	
・道具類の名前を間違っている場合は、その場ですぐに伝える。→教えてくれる。 ・従業員の方々への障がい（本人の特性）の理解啓発を図る（会話のきっかけづくり） →話し掛けてくれて嬉しい。	
「評価及び引継ぎ事項」	
<引継ぎ事項> ・引き続きサカイで頑張りたい。	<本人の評価> ・すぐがんばった ・がんばった ・段ボールを3つ運べるようになってきた ・冷蔵庫を持てるようになった。 ・ドラム洗濯機も持てるようになった。



本人

成長を実感



本人

職場への感謝

概念の共有化



学校



職場

◎卒業後2年目

「本人の願い」	「私の目標」
<「働く」の視点から> ・今までどおりの仕事を頑張りたい。→継続	・養生を貼っていい場所と、貼ってはいけない場所が分かる。→先輩の様子を見ている。
「合理的配慮」	
・体の使い方が間違っているときには引き続き教える。→教えてもらっている。 ・養生を貼る場所、貼ってはいけない場所を教える。→やり方を見せてもらっている。	
「評価及び引継ぎ事項」	
<引継ぎ事項>	<本人の評価> ・すぐがんばった ・がんばった ・もう少し

【参考・引用文献】

- (1) 石川 誠 (2016)「企業活動での「合理的配慮」と学校との連携（特別支援教育研究 6月号）」
- (2) 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 (2017) 平成 29 年度版就業支援ハンドブック
- (3) 眞保 智子 (2016)「障害者雇用の実務と就労支援」
- (4) 厚生労働省 (2016)「障害者雇用促進法に基づく障害者差別禁止・合理的配慮に関する Q&A 第二版」
- (5) 厚生労働省 (2017)「合理的配慮指針事例集（第三版）」

表紙絵「あきらめるな！～大人への階段をのぼる僕たち～」

中学部2年 船木 幸将

<コメント>社会人になるには、いろいろな勉強をしなければいけません。先生方や家族など、たくさんの人たちが「がんばって」と応援してくれます。だから、僕たちは、大人への扉を開けるまで「あきらめないでがんばります」という気持ちを描きました。

題 字「私の応援計画」

高等部1年 伊東 香澄

発行年月 平成30年3月

発行所 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75

電話 018(862)8583

FAX 018(862)8525

ホームページアドレス <http://www.sh.akita-u.ac.jp>

メールアドレス fuyo@sh.akita-u.ac.jp

